

MACF 礼拝説教要旨

2023年7月30日

「暑い日にヨナは・・・」

ヨナ書は神様がどれほど人間を愛しているかを
教えている書物として特筆すべき内容を含んでいます。

1) 神様からの命令に背き、逃げ出すヨナ

1章にはヨナの逃亡事件が書かれています。

ニネベの人たちのところに遣わされるということについて

ヨナは納得できませんでした。かれらは敵ですし、彼らの
悪が裁きを招くなら、それは自業自得と考えていたのです。

でも、逃げてタルシシユ行きの船に乗り込んだまでは良かったのですが
途中神様は大風を吹きつけ、ヨナはくじに当たり、自分の罪を
告白せざるを得なくなりました。

そして海に投げ込まれるのですが、その先に大きな魚を
神様は用意してくださいました。

つまり、神様からヨナに託された宣教命令は

なんとしても「届けなければならない」神様の

心の現れでした。だからこそ、神様は逃げるヨナを捉え
魚を用意し、目的地まで運ばせたのです。

2) 魚の腹の中で悔い改め、祈るヨナ

ヨナは魚の腹の中で三日三晩祈ります。

そして心を新たにして再出発を願い、祈っています。

3) ヨナが逃げていたニネベに送られ本来の働きをするヨナ

神様は魚をニネベの近くに導き、ヨナは吐き出されますが、

ニネベに行き、そこで神様に託されている言葉を伝えました。

驚いたことに、それを聞いたニネベの人たちは心から悔い改め

神の前に正しい生き方をしようと決意するのです。王様も一般人も
みんなこぞってヨナの宣教を信じたのです。

そして、その悔い改めを見て神様はニネベを裁くことを
思い直すのです。

4) ヨナの憤りと神様の愛の言葉

神様が二ネベを裁かないという出来事はヨナを怒らせました。
結局、そういうことになることはわかっていた、とヨナは
拗ねたように神様に向かって文句を言います。
ヨナにとって二ネベの人たちが赦されるなどということは、
あってはならないことのように思われたのです。

そして、暑い日にヨナは、二ネベの街の様子を見ようと
高台から眺めることにします。
暑さで大変なのですが、神様はトウゴマを備え日陰を用意します。
ヨナは大いに喜びますが、翌日、神様は虫を用意して
その緑の葉っぱを食べさせてしまうのです。さらに熱風が吹き、
ヨナの怒りは爆発し、「死んだ方がましだ」と神様に文句を言います。

そして、ヨナ書のクライマックスですが、聖書を引用しておきます。
ヨナ書 4 章

6 すると、主なる神は彼の苦痛を救うため、とうごまの木に命じて芽を出させられた。とうごまの
木は伸びてヨナよりも丈が高くなり、頭の上に陰をつくったので、ヨナの不満は消え、このとうごまの
木を大いに喜んだ。 7 ところが翌日の明け方、神は虫に命じて木に登らせ、とうごまの木を食い荒ら
させられたので木は枯れてしまった。 8 日が昇ると、神は今度は焼けつくような東風に吹きつけるよ
う命じられた。太陽もヨナの頭上に照りつけたので、ヨナはぐったりとなり、死ぬことを願って言っ
た。「生きているよりも、死ぬ方がましです。」 9 神はヨナに言われた。「お前はとうごまの木のこと
で怒るが、それは正しいことか。」彼は言った。

「もちろんです。怒りのあまり死にたいくらいです。」 10 すると、主はこう言われた。

「お前は、自分で労することも育てることもなく、一夜にして生じ、一夜にして滅びたこのとうご
まの木さえ惜しんでいる。 11 それならば、どうしてわたしが、この大いなる都二ネベを惜しまずに
いられるだろうか。そこには、十二万人以上の右も左もわきまえぬ人間と、無数の家畜がいるのだか
ら。」

神様の二ネベの人たちへの思いが伝わるでしょうか？
私たちの中に「自分たちを救ってくれるのは嬉しいけれど、
あの人たちを祝福するなんてゆるせない」という思いはないでしょうか。
わたしたちの、他者の祝福への妬み、怒り、は正しいものでしょうか？
ヨナ書はあなたに何を語っているでしょう。

MACF 礼拝映像はこちらです。

<https://youtu.be/nPDBY8Yz-JU>

